

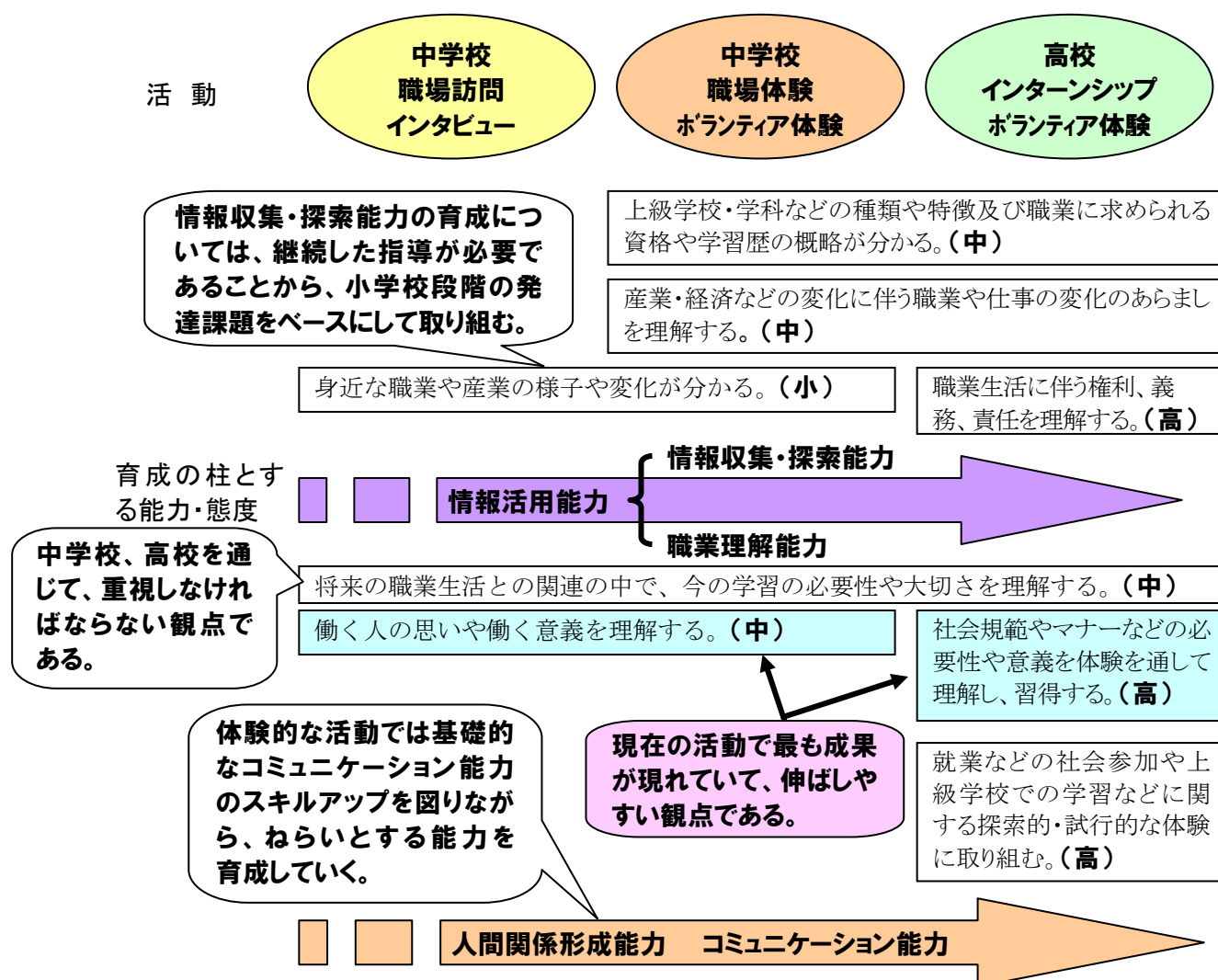
POINT 3 活動のねらいを明確にし、能力や態度に着目して体験的な活動の成果をとらえる

体験的な活動は、児童生徒が手応えや充実感を得やすく、キャリア教育実践の柱となるものです。しかし、ねらいがあいまいなまま実践に取り組んでしまったり、感覚的な評価にとどまってしまったりする例も見られます。また、手応えや充実感が得られたとしても、一過性の活動に終わってしまうといった問題点が指摘されています。体験的な活動がどのような能力や態度の育成をめざしているのか明確にするとともに、活動の前後でどのような意識の変容がみられたかを的確に把握して、記録にとどめておく必要があります。

■ 伸ばしやすい能力と伸ばしにくい能力を明らかにする

イメージ図 職場体験、インターンシップなどの体験的な活動を情報活用能力の育成を中心に見た場合

〈 ※ p.23、24 に示す小、中、高の各段階の具体的な能力や態度を引用（小）（中）（高）〉



事例紹介

ここでは、中学校のマイ・チャレンジ事業と高校のインターンシップの取組を例にして、キャリア教育における体験的な活動の展開のポイントを説明します。

事例 12〔中学校〕心の教育の視点を生かして社会体験活動を実践する

この中学校では、心の教育の視点から、第2学年の生徒に対して、マイ・チャレンジ事業に基づく社会体験活動を実施しています。

○ 活動のねらい(指導目標)

地域の人々との関わりを主とした社会体験活動を通して、生徒が大人の考えにふれ、共に生きる心や感謝の心を育て、自己の在り方や生き方を見つめさせます。

関連する能力 → 人間関係形成(自他の理解能力)、情報活用能力(職業理解能力)

○ 活動の留意点

- ・社会人としてのあいさつや言葉づかい、マナーは、日頃の生活でも心がけよう。
- ・体験したことや出来事は、家の人と進んで話し合うようにしよう。

関連する能力 → 人間関係形成能力(コミュニケーション能力)、情報活用能力(職業理解能力)

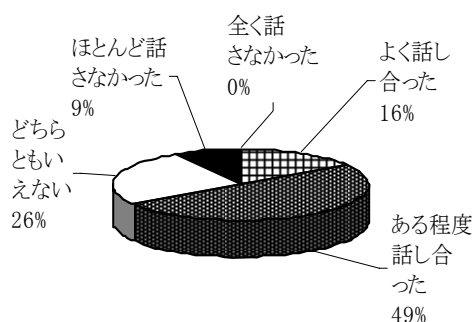
○ 活動のまとめの視点(まとめの項目)

※ 学習の深化のためには、アンケートや自己評価シートに、ねらいや活動の留意点に基づいた項目を設定することが大切です。

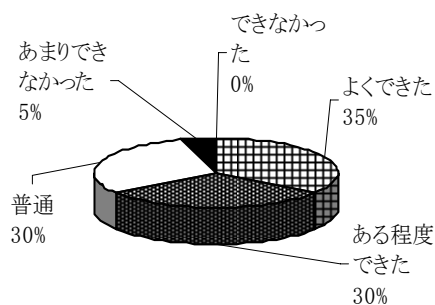
- ①マイ・チャレンジ活動の目的(自分) ②心に残ったこと・学んだこと・新たな発見
③大人のひとと話したこと ④家のひとと話したこと ⑤マイ・チャレンジの体験を今後
にどう生かしたいか ⑥友達の体験から気付いたこと ⑦感想

○ まとめ(回答結果・記述例)

家族と活動について話し合いましたか



事業所の方々と交流できましたか



活動のねらいや指導上の留意点としてあげた地域の人々や働く人々との交流を図ることができた。また、あらためて家族とのコミュニケーションの意義をとらえ直す機会となった。

感想

満足感	楽しくできた。
多様な体験	いろんな事ができた。
活動への興味や関心	別の活動もしてみたくなった。
社会への関心や理解	職場について分かった。社会について知ることができた。
苦労	仕事は楽かと思ったらつらかった。勤務の大変さが分かった。
充実感、苦労	すこしためになった分、疲れた。
充実感	やり遂げた気持ちでいっぱいだった。
礼儀、マナー	人として生きていく上で大切な事を学んだ(あいさつ)。
人間関係の重要性、他者への気づかい	人間関係の大切さを知った。人に気づかいをするのは、仕事では当たり前なんだと感じた。
苦労	働いている人は、こんなつらい仕事を毎日しているのかと思うと、大変だ。
活動への興味や関心	日がたつにつれて、仕事をやる楽しみが増えてきた。活動が終わったら寂しさを感じた。
活動への興味や関心	学校にいたよりも毎日楽しかった。仕事をするのは結構楽しかった。
自信、苦手意識の克服	苦手と思っていたこともやったので、苦手克服になった。
活動への興味や関心	将来の仕事を決めるのに道が広がった。また、違う仕事もやってみたい。
苦労	大人の仕事が簡単だとは思っていなかったが、一週間であんなに疲れるとは思ってもみなかった。
多様なコミュニケーション	家の大人の人以外の大人と話せたことがよかった。
多様なコミュニケーション	たくさんの人と交流ができてよかった。就職するときに役立てたい。
多様なコミュニケーション	自分から積極的に分からないことや教えてほしいことを聞いたので大人とのコミュニケーションが深まったと思う。
自信、苦手意識の克服	小さい子はあまり好きではなかったのに、保育園に行ったら好きと感じられた。
満足感、多様な体験、充実感	毎日がすごくはやく過ぎたが短い間に大切なことをたくさん学べた。やってよかった。
多様なコミュニケーション	接客では、お客さんとのコミュニケーションをとることが大切だと分かった。
感謝	マイ・チャレンジでお世話になった方々に感謝したい。
礼儀、マナー	あいさつ、礼儀作法がとてよくなった。
自信、苦手意識の克服	注意されたことをプラスにして頑張れた。
満足感や充実感	少しだけ大人になったような気がした。マイ・チャレンジのおかげで体力がついた。

事例から学ぶこと

- ① 体験活動のまとめの感想やアンケートの記述から読み取ると、活動を通して自己有用感や自己肯定感が得られていることが分かります。
- ② 「様々な人々とのコミュニケーション」や「他者への気づかい」、「礼儀、マナーの大切さ」や「苦労」など、活動を通して、人間関係形成能力及び情報活用能力に関わる意識や態度の変容が促されていることが分かります。
- ③ 活動を通して、学校での学びの重要性を言葉にする生徒は少ないようです。貴重な経験を、日々の取組に生かそうとする態度の育成につなげるためには、系統的な進路学習に体験的な活動を組み入れて展開することが求められます。

事例 13〔中学校〕地域の人々の声から社会体験活動の成果を把握する

この中学校は、地域との連携を基盤とした社会体験活動を積極的に展開しています。家庭や地域の人々と、活動を通じた生徒の意識や態度の変容を共有することで、学校、家庭、地域が協働して児童生徒のキャリア発達を促すようになることが期待されています。

○ 活動のねらい(指導目標)

- (1) ※ 心の教育の視点からの目標 (省略)
- (2) 地域の人々と生徒の関係を深化させ、生徒を育む取組を地域に浸透させることにより、地域における教育力の掘り起こしを行う。

関連する能力 → 人間関係形成能力(自他の理解能力)、情報活用能力(職業理解能力)

○ 事前の活動

夏休みの課題として、「職場体験事前レポート」を作成する。

- ① 希望する職種を三つ選び、それらについてレポートを作成する。
 - ② 調べる項目について、図書館などで書物を使って調べる。
 - ③ 家族や知人などから話を聞いて調べる項目についてまとめる。
 - ④ 5、6は、各自、特に調べたい項目があれば考えて、調べてみる。
- レポートの項目
- 1 どんな仕事をしていますか？ (仕事の内容)
 - 2 どんな環境で働いてますか？ (職場の環境)
 - 3 どんな心がけが必要ですか？ (仕事上の注意点)
 - 4 大変なことはありますか？ (仕事の難しさ) 5、6 各自設定

関連する能力 → 情報活用能力(情報収集・探索能力、職業理解能力)

○ 活動のまとめの視点(まとめの項目)

- (1) 事後反省の記録 (記述による活動のまとめ)

(省略)

- (2) マイ・チャレンジ事業 アンケート (選択肢)

(保護者)

- 1 お子さんとマイ・チャレンジについて事前に話し合われましたか？
- 2 期間中にお子さんとマイ・チャレンジについて話し合われましたか？
- 3 活動を通して何かお子さんに変化はありましたか？
- 4 活動を通してお子さんの見方が変わりましたか？

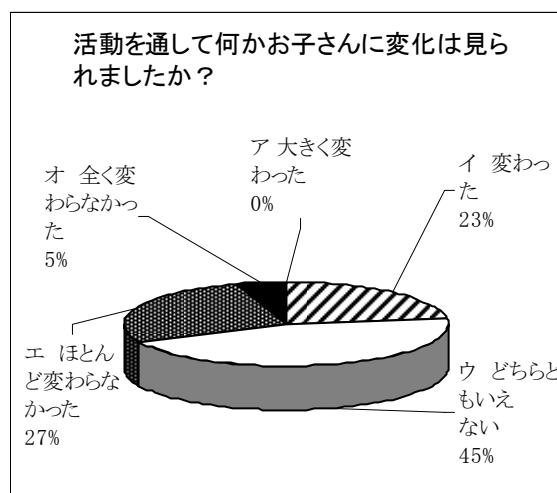
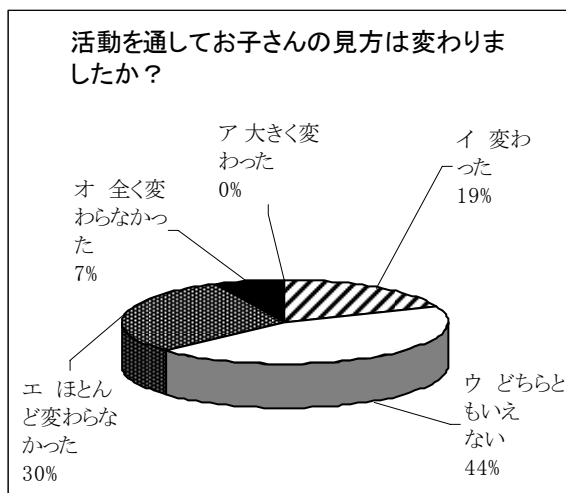
(事業所)

- 1 職場体験学習に対する生徒の取組はどうでしたか？
- 2 職場体験学習を通して、生徒たちに変化が見られましたか？
- 3 この一週間で中学生に対する見方は変わりましたか？

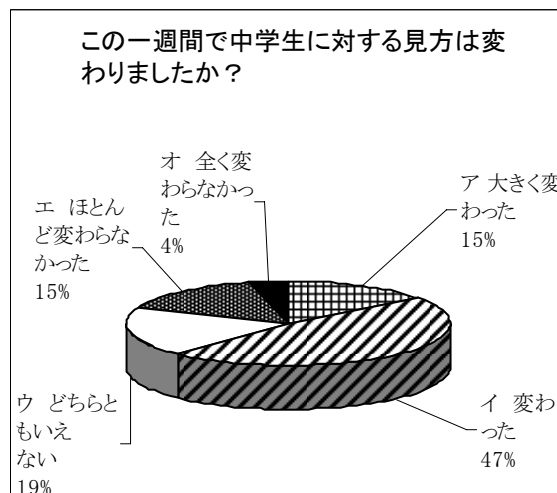
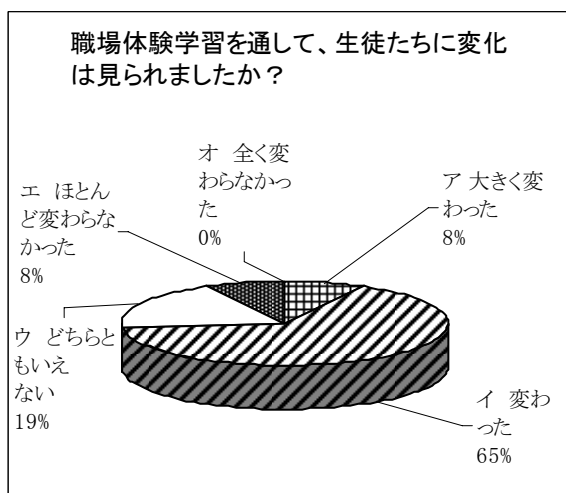
※ 生徒、教職員以外に、保護者と事業所にもアンケートの回答を依頼した。

○ まとめの回答結果

（ 保護者 ）



（ 事業所 ）



事例から学ぶこと

社会体験活動を通じた生徒の変容は、中学生や高校生の発達段階の特徴もあって、保護者の前では現れにくい面もあると考えられます。むしろ、体験先の大人のほうが子どもたちの変容をよりはっきりと意識しているという面もあります。この事例では、地域の人々の声を積極的に取り上げて、成果を明らかにしています。このようにして、体験活動の成果を、家庭や地域と共有することで、その後の進路学習の発展や次年度の体験活動の改善につなげることができるようになります。

事例 14〔高等学校〕インターンシップを生かして、高校における学びの基盤となる積極性や他者に関わる態度を育成する

この高校では、第1学年の進路学習に位置付けてインターンシップを実施しています。職業人として生きていくために必要な資質・能力が、高校における学びの基盤ともなっていることを、生徒に再確認させるねらいがあります。

■ インターンシップのねらい

この高校では、生徒が体験を通して社会規範やマナーの必要性あるいは意義を実感して実践できるよう、指導しています。このような生活の基盤づくりを充実させることは、学びの充実につながるものと考えられます。

また、インターンシップにおいては、自ら考えて、積極的に行動することを重視しています。「自分だったらどうだろう？」という問いは、探索的、試行的な行動を促すもので、高校生の学習の質にふさわしい課題と考えられます。

〔 職場体験活動のねらい 〕

『『職場体験学習』マニュアル』より

I 努力目標

キャッチフレーズは **一緒に働きたいと思われる人になろう！**

- (1)「元気なあいさつ」と「ステキな笑顔」を忘れない！
- (2)「はい」「わかりました」「すみませんでした」「ありがとうございます」などの言葉が自然にでてくるような態度を心がけよう！
- (3)自分だったらどうだろう？という具体的な問いかけをしてみよう。
- (4)周りの人への感謝の気持ちを忘れないようにする。日誌など記録をしっかりと残し、あとになって振り返ることができるようにしよう。

視点1 「人間関係形成能力」 特に「コミュニケーション能力」

自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志などを的確に理解する。

視点2 「情報活用能力」 特に「職業理解能力」

社会規範やマナーなどの必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。

視点3 「将来設計能力」 特に「役割把握・認識能力」

学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす。

視点4 「キャリア」

キャリアは経験の累積であり、それらを事後に振り返り、理解を深める。

■ 事前の学習のポイント

生徒に、体験を通して、社会規範、マナーの必要性、意義などを実感して、実践できるようにすることを目標として意識させています。

体験中のマナーとルール

- (1) 自分の携帯電話は絶対に電源を切り、必ずバッグに入れておくこと！体験中は絶対に携帯電話を操作してはいけません！
- (2) 職場で初めてお会いする方々には、「おはようございます」「よろしくお願いします」など気持ちのいいあいさつを忘れずに。
- (3) お客様にはもちろんのこと、職場で働いている方にもしっかりした敬語を使い、「です」「ます」を使って丁寧に話そう。相手の目を見てしっかり話そう。
- (4) 一緒に体験する友達同士でも公の場であることをわきまえて、友達言葉（ため口）で騒いだり、乱暴な言葉を使ったりしない！
- (5) 「単語」だけでなく「文」できちんと話そう。
- (6) 分からないことがあったら自分から聞くこと。指示待ちではいけません。

■ 評価のポイント

学習の成果を次の(1)、(2)、(3)の資料にまとめたものを評価しています。具体的な評価票を明示することで、体験に臨む態度の育成が図りやすくなると考えられます。

- (1) 事前及び事後にわたって学習ノートに記入したもの
 - ・各自「学習ノート」の『職場体験学習 日誌』に毎日記入すること。
 - ・記録した日誌は、体験先の職場の方に毎日提出して「確認印」をいただくこと。
 - ・質問票にある質問の回答を学習ノートに記入すること。
 - (2) 職場体験実施報告書（所定の用紙）
 - (3) 評価票
 - ※ 次のような評価票を体験先をお願いしてあります。
 - ※ 生徒自身も同じ項目で評価します。（自己評価）
- 次の項目①～④それぞれについてA～Cの3段階評価をして右の名簿にしたがってご記入してください。

評価項目	評 価 内 容	良い	普通	悪い
①出欠状況	・決められた日数休まずに参加できたか。 ・決められた時刻に出社、退社したか。	A	B	C
②体験状況	・素直な態度で指導を受けていたか。 ・熱心さや真面目さがあったか。 ・協力的な態度であったか。	A	B	C
③服装、応対	・服装や身だしなみに気を付けていたか。 ・言葉づかい、応対はきちんとできたか。	A	B	C
④総合	・以上、総合してどうだったか。	A	B	C

■ 活動中及び事後の学習のポイント

日誌に一日一日の活動の様子を記録したり、考えたことや気付いたことを書きとめさせたりすることは、そのときの振り返りを促して、より体験を充実させます。さらに、事後に報告書をまとめる際に活用するとともに、その後の進路の選択や決定のよりどころとすることができます。

『職場体験学習 日誌』の記入例

(1 日目)

17年11月1日(火)	体験場所	〇 〇 〇 〇 病院	
今日の記録			
箇条書き、あるいは図を書き加えるなど、自由な表現方法で記録しています。		※生まれたての赤ちゃんはミルクではなく母乳を飲ませる。 その子の腸がきちんとできているかを確認するため、ミルクだと寝ておらず、 なだりしちゃう。 ※赤ちゃんから次の赤ちゃんを産む時は、赤ちゃんの手を洗う。 ※赤ちゃんがうつちゅうから。 線 - 診察 - 病名 治療 ← 検査 予防 (健康診断) いざなり (検査が病名が) 石炭教育 患者さんの権利 ①良質な医療を受けられる権利 ②生命・人格を尊重される権利 ③検査や治療の目的、方法、内容および病状の に関する権利 ④治療法や検査を選択する権利 ⑤プライバシーが保護される権利 ※患者さんの一言一語上の人に伝えていた。 ※患者さんのさけい権利にも答えていた。 ※「はい、そうです」と状況をきちんと毎日言っていた。	
今日の感想			
今日は、初めて看護の体験をしてドキドキしていました。あこがれのナースキャップもかぶりました。今日は、緊張して質問ができなかったけど、いろいろな患者さんと接していて、看護師は忙しくせわしない仕事だと感じました。でも、要求に応えた後の患者さんの「ありがとう」という一言で、私の中で看護師は「たいへんな仕事」というイメージから、「よろこばせるための仕事」というイメージに変わりました。			
今日の学習について自己評価しよう	・ 関心、意欲はあるか。 ・ 授業 (参加の) 態度はよかったか。 ・ 理解することはできたか。	A・B・C ④・B・C ④・B・C	確認印

事例から学ぶこと

体験先からの評価としては、中学校段階では、「言われたことをきちんとやる」ということでも十分に認められますが、さらに、高校段階では、「自ら積極的に指示を求めるような姿勢や行動を示す」ことが求められます。このことは、学校での学習にも生かされるものです。本事例では、社会でも大切なことが学習の基盤となることを実感させようというねらいがあります。

事例 15〔高等学校〕生徒の主体的な参加意欲を重視してインターンシップを実施する。

この高校では、生徒に対し、多様な体験活動への積極的な参加を促しています。その一つとして、第2学年の希望生徒を対象にインターンシップを実施しています。

■ 進路学習展開の基本方向とインターンシップの位置付け

(PTA総会資料より)

本年度の最重要課題と具体策

勤労観や職業観を育む

- ・「職業に就く」ということは、生活を支える経済的基盤をつくるばかりではない。
- ・職業を通して自分自身が成長し、さらに広く社会への貢献へつながっていく、生涯を通して関わる最も大切なことの一つである。

自ら積極的にキャリア・アップを図ろうとする態度の育成を重視しています。

各学年の概要

【2年生】

夏休み中に、全員がそれぞれに何かしらの「体験学習」をし、報告をしていただきます。また、昨年度に引き続いて「インターンシップ」を希望者に対して実施します。7月下旬の5日間です。さらに、各種の説明会やオープン・キャンパス、体験型研修に積極的に参加させてください。

体験を通して自分の希望や将来設計に対する自信と確信をもてるようにする。

■ インターンシップのねらい

- (1) 進路に関して学習している内容を、実際の職場で体験し、職業人に求められる勤労観や職業観を体感して、職務遂行に伴う倫理観を、体験を通して学ぶ。
- (2) 体験を通して、地域企業への理解を深め、地域に貢献できる素地をつくる契機とする。
- (3) 保護者や学校の教職員以外の大人と接することで、異世代間コミュニケーションの能力向上を図る。
- (4) 就業現場においての実践的な知識や技能に触れることで、学校での学習の意義を再確認する。

※ 高校段階にふさわしい発達課題を設定します。

就業などの社会参加や上級学校での学習などに関する探索的・試行的な体験に取り組む。

■ インターンシップによる生徒の意識の変容

○ インターンシップに関するアンケート [第2学年 23名]

(各項目の回答数/参加者数)

項 目	活動前	活動後
参加することへの期待と満足度	○ 参加することをどう思いますか。 〔選択〕 ア 是非参加したい (16/23) イ 参加したい (7/23) ウ 参加したくない (0/23)	○ 参加してどう思いますか。 〔選択〕 ア 大変よかった (18/23) イ よかった (5/23) ウ よくなかった (0/23)
学びへの期待と成果	○ どのようなことが学べると思いますか。 〔自由記述〕 ①働くことの意味、大切さ、楽しさ (11) ②人間関係、異世代間のコミュニケーション (5) ③仕事の内容、社会勉強 (4) ④職業適性 (4) ⑤社会のルールやマナー (3)	○ 学んだことは何ですか。 〔二つ選択〕 ア 働くことの大切さ (6) イ 働くことの厳しさ (3) ウ 仕事に関する勉強の必要性 (0) エ 体力の必要性 (4) オ あいさつ、言葉遣いの大切さ (9) カ 身だしなみの大切さ (0) キ 時間を守ることの大切さ (4) ク 人間関係の重要性 (7) ケ 学校と社会の違い (6) コ 企業の役割、責任の重さ (2) サ 働くことの楽しさ (1)
働く目的	○ 働く目的は何だと思えますか。 〔二つ選択〕 ア 自分の能力を試すため (4) イ 自分を成長させるため (8) ウ 楽しい生活を送るため (9) エ 経済的に自立するため (15) オ 経済的に豊かになるため (7) カ 会社の発展のため (1) キ 社会に奉仕するため (2)	○ 働く目的は何だと思えますか。 〔二つ選択〕 ア 自分の能力を試すため (2) イ 自分を成長させるため (11) ウ 楽しい生活を送るため (10) エ 経済的に自立するため (10) オ 経済的に豊かになるため (7) カ 会社の発展のため (2) キ 社会に奉仕するため (4)

働くことの多様な側面に気付くと、働くことに対するイメージが具体的になったり、回答も多様化したりします。

事例から学ぶこと

① 現実的な理解を促すこと

小学校段階と異なって、中学校や高校の段階になると、夢やあこがれだけで将来の生き方や進路を考えることはできません。働くことに対する現実的、具体的な理解が求められます。

② 個々人の勤労観や職業観

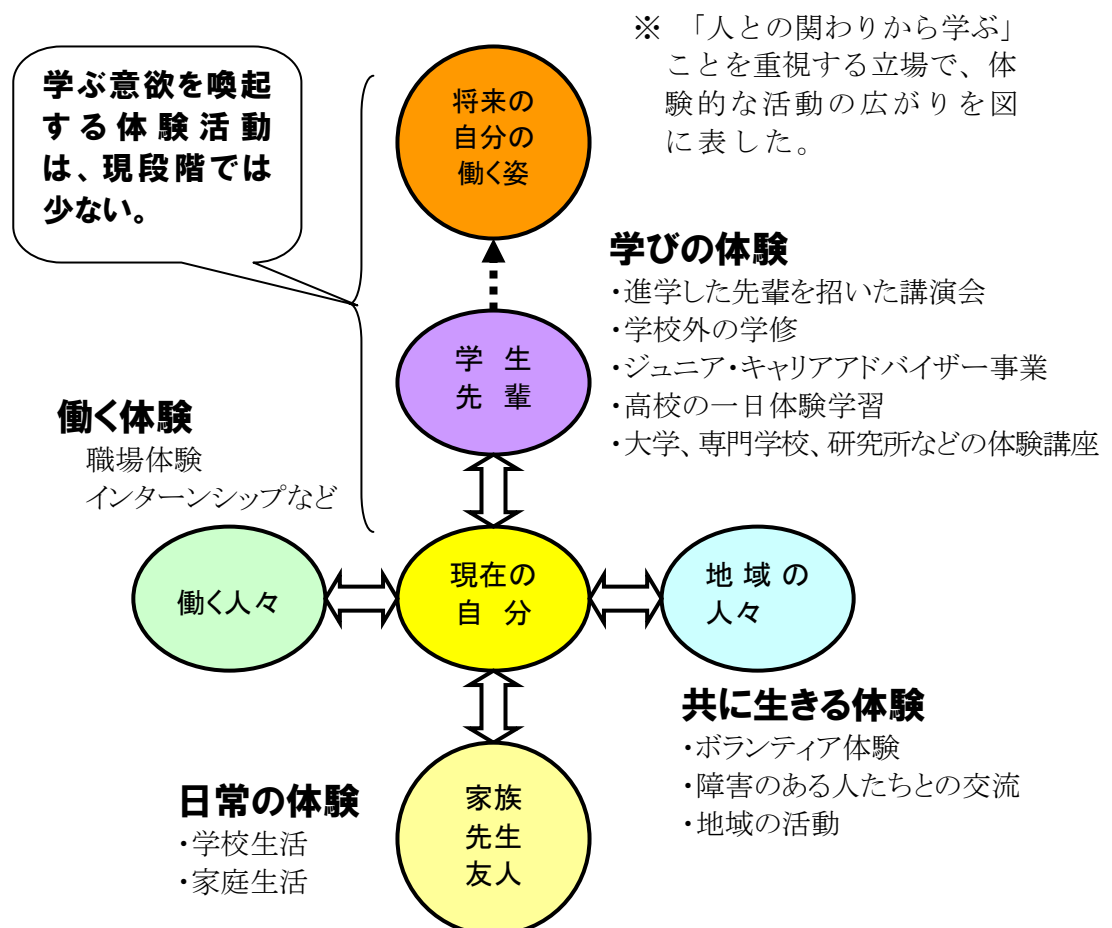
勤労観や職業観については、その人なりの個性の部分と、多くの人々に共通する部分とがあることに気付かせることが大切です。

解説8 キャリア教育における体験的な活動の広がり

キャリア教育では、幅広い体験活動を通して、キャリア発達を促します。職場体験やインターンシップは、働く人々の姿を通して、仕事の内容を直接知ることができる有意義な活動です。また、社会に貢献することをより重視するボランティア活動や、職場以外にも、家庭や地域で役割や責任を果たす活動もあります。また、希望の仕事に就くため真剣に学んでいる学生や先輩たちの姿に触れるような、学びの体験活動も意義あるものです。

多くの中学生、高校生が、さらに上級学校で学ぶ現状からも、学習や経験を重ねて資質・能力を高めていくことが不可欠です。あこがれているだけでは希望の仕事には就けません。学ぶ必要や、資格をとるための努力が必要なこともあります。今後は、そうしたことを実感できる、学びの体験活動を含む学習プログラムの開発が期待されます。

■ キャリア教育における体験的な活動の広がり



■ キャリア教育にあたって注目される事業や活動

文部科学省だけでなく、関係省庁、都道府県、さらに地域が協力して、新たな試みが進められています。従来から行われている体験的な活動に広がりをもたせ、さらに充実させるために、こうした取組に注目していくことが大切です。

ジョブカフェ

厚生労働省と経済産業省が推進する事業で、キャリア・カウンセリングから研修、就職あっ旋まで、若者の就業を支援するワンストップサービスセンター（通称：ジョブカフェ）を設置して、若年者の雇用対策を充実させる事業です。高校生のインターンシップの推進にも当たっています。ジョブカフェは都道府県が設置しますが、運営やプログラム開発を民間委託する例もあり、関係省庁が縦割り行政の壁を破って協力、支援することになっています。

○ 栃木県では「とちぎ就職支援センター」がその機能を担当しています。

宇都宮市本町3-9 県庁南庁舎2号館（本町合同ビル）1階 TEL 028-623-3226

インターンシップ、デュアルシステム

インターンシップとは、産業の現場で「生徒が在学中に自分の学習内容や進路に関連した就業体験をする」ことです。正規の学校教育活動の一つで、単位として認定することもできます。すべての高校生にとって、産業や職業の現場を知ることは、将来の生き方や進路を考える上で有意義なことです。

デュアルシステムとは、ドイツの職業学校における職業訓練制度で、週に数日程度職業訓練に充て、企業で実際に働きながら職能を身に付ける制度です。就業期間分の単位が認められ、給与も支払われています。平成17年度から文部科学省の施策として推進されている「日本版」は、職業意識や勤労観の育成に重点を置き、卒業後の進路と切り離しているのが特徴です。他の都府県では、学校と連携した企業において、10日間程度のインターンシップにはじまり、2か月から4か月程度の長期就業訓練へと就業訓練を段階的に経験することにより、実践的な技術や技能を身に付ける制度を導入した例があります。

○ 厚生労働省・日本版デュアルシステム

<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/syokunou/dual/index.html>

ジョブシャドウ

働いている人の後ろに張り付いて仕事を体験したり、見聞きしたりすることによって、実際の職務の在り方や勤労について学ぶことができる活動です。企業の経営のように、中学生や高校生では体験が難しい職務について理解するのに適しています。

YES-プログラム

Youth Employability Support Program(若年者就職基礎能力支援事業)

企業が若年者の就職に関して特に重視している「コミュニケーション能力」、「職業人意識」、「基礎学力」、「ビジネスマナー」といった就職基礎能力の修得を支援することを目的に、厚生労働省が創設した事業です。

就職に関わりの深い基礎能力の領域ごとに、厚生労働大臣が認定した講座や試験について修了または合格し、あわせて情報、経理、語学関係の資格（別途定められているものに限る）を一つ以上取得することにより、厚生労働大臣名の「若年者就職基礎能力修得証明書」の交付を受けることができます。

○ <http://www.mhlw.go.jp/general/seido/syokunou/yes/>

ジュニア・キャリアアドバイザー

専門高校あるいは学科の高校生が、学習で得た知識や技能をもとに、小学生や中学生に野菜の栽培やものづくりを指導することにより、小学生や中学生の働くことへの関心・意欲の醸成を図るとともに、高校生の勤労観や職業観及びコミュニケーション能力を育成しようとする事業です。

キャリア・スタート・ウィーク

子どもたちの勤労観、職業観を育てるために、中学校において5日間以上の職場体験を行う学習活動が、文部科学省の施策として平成17年度から推進されています。「キャリア・スタート・ウィーク」は、子どもたちが働くことの喜びや厳しさを学び、学習に対する意欲を向上させるための貴重な体験となります。本県では、すでにマイ・チャレンジ事業が定着していますので、活動の成果をキャリア教育の視点から検討して、より質の高い活動にしていくことが期待されています。

○ リーフレット http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/05010502/019/001.pdf

中学生マイ・チャレンジ事業

栃木県教育委員会が「心の教育」の一環として推進している事業で、中学生がまとまった一定の期間、学校を離れ地域に出て人々との関わりを主とした社会体験活動を行うものです。平成12、13年度から「マイ・チャレンジ推進事業」をパイロット事業として実施して、平成15年には、県内の約85%の中学校2年生が、5日間連続した社会体験活動を行うまでに広がりました。

平成16年度からは、名称を「中学生マイ・チャレンジ事業」と改め、学校や地域の特性を生かした活動ができるよう改善することにより、地域や家庭との連携、協力による中学生の社会体験活動を一層促進することを目指しています。

○ <http://www.pref.tochigi.jp/gakkou-kyouiku/gimu/mychare/index.html>